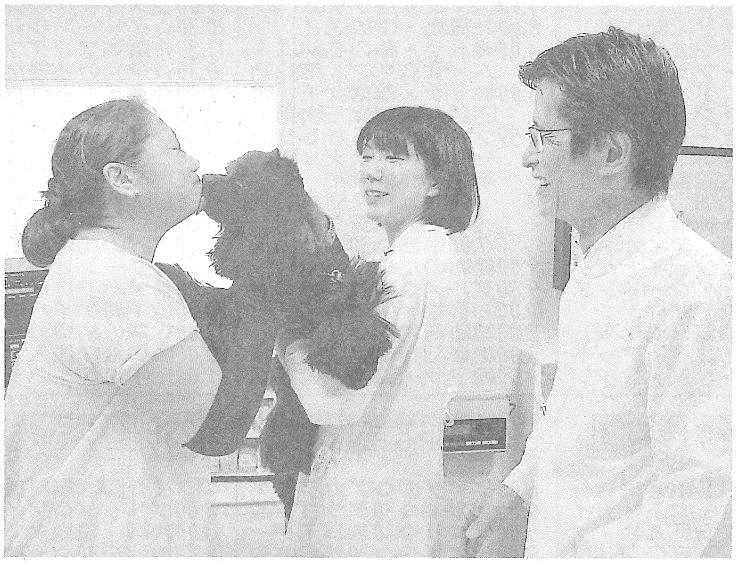
（第3種郵便物認可）　2017年（平成29年）8月29日（火曜日）

週刊経済

元気な鳴き声 聞きたくて

どうぶつ耳科専門クリニック主の枝（洲本市）

洲本市宇原、「どうぶつ耳科専門クリニック主の枝」は犬や猫の耳を治療している。耳科専門の獣医師は全国にほとんどおらず、診療実績が治療技術の進歩にも寄与している。飼い主が納得するまで時間をかけて治療方針を説明しており、遠方から多くの来院がある。（高田寛）



杉村院長（右）の治療を受け元気を取り戻した犬と飼い主（洲本市宇原で）

治療方針 時間かけ説明

「受診前はちょっとさわるだけでキャンと叫んで。ずっと痛くてつらかったんでしょう」。3回目の治療に訪れ、元気を取り戻したアメリカンコッカースパニエルを抱き、京都市の税理士、廣内秀泰さん(54)は安心した表情を浮かべた。「腫れが引き、耳の手触りが全然違う」と愛犬をなでながら、熱心に質問を繰り返す廣内さんに、杉村肇院長(58)が丁寧に健康管理のアドバイスをした。

1988年に開業した動物の総合診療クリニックを2014年12月から耳科専門に切り替えた。高温多湿な日本の気候もあり、耳の疾患が目立つことに気づいたのがきっかけだった。

獣医師が耳科を体系的に学ぶ十分な体制はなく、体調を崩す要因が見過ごされることも少なくない。治療した犬の機嫌が目に見えて良くなるのを見て、「必要性を強く感じた」という。

複雑なL字形をした犬の耳の診察や治療は、内視鏡を使う。日常の様子や行動、食事の内容などを細かく問診し、検査で全身の状態を観察する。炎症の原因になる汚れの洗浄や投薬をし、必要な場合は手術をする。人間の耳鼻科の治療技術も学び、応用研究を欠かさない。アレルギーが原因のこともあり、飼い主と密接に連絡を取って注意すべき点を伝えている。

「難治性の疾患が良くなり、ペットも飼い主も元気になることがとてもうれしい。常にレベルアップを目指して研さんしていきたい」と杉村院長。症例や治療は学会で報告している。

丁寧な診療のため動物病院では珍しい予約制をいち早く導入。感染症予防のため受付は窓越しのドライブスルー方式だ。「ホスピタルの語源はホスピタリティー(もてなし)。遠くから来院する人の不安を少しでも和らげることができれば」と話す。

問い合わせは同クリニック（0799・22・2770）。日曜・祝日休診。